

# コロナ禍でも

# 妊産婦支援

仙台市内の産科施設が、新型コロナウイルス感染を防ぐ「新しい生活様式」に合わせた妊産婦のサポートを模索している。母親学級や出産セミナーをオンライン形式に切り替えたり、立ち会い出産を制限付きで認めるなど工夫を凝らし、母子の感染リスク低減と安心な出産の両立を図る。

## 母親学級 ネット活用

## 出産の立ち会い緩和

「皆さん、スライドが見えますか。お茶を飲みながらリラックスしてご参加ください」。青葉区支倉町のセントマザークリニック。佐藤聡二郎院長が13日、パソコン画面に映る10人の妊婦に呼び掛けた。

ビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を初めて使い、麻酔で陣痛を和らげる「和痛分娩」のセミナーをオンラインで2カ月ぶりに開催した。お産の流れや骨盤のケアなど妊娠後期に受けてもらう母親学級の内容も話題にした。

佐藤院長は「『3密』を避けるため一堂に会するセミナーは難しいが、妊婦の不安を少しでも和らげられないかと考えた。オンライン形式であれば、遠方の妊婦も気軽に参加できる」と手心えを語った。

東北公済病院(青葉区)もオンライン母親学級の開催準備を進める。産前、産後の過ごし方を解説した動画を制作中で、参加希望の妊婦に閲覧用パスワードを教えるなどして、限定的に公開する計画。助産師がオンライン上で相談に応

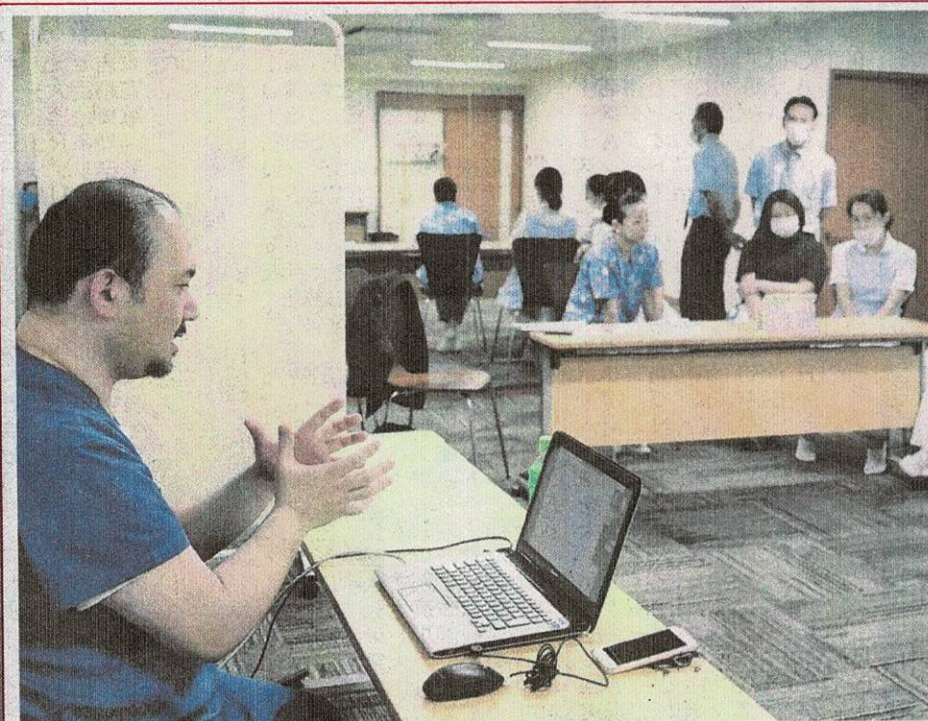
# リスク低減と安心感両立

若林区荒井のT'sレディースクリニックは7月から、県内在住の配偶者に限り出産前後の1時間程度立ち会いを認める。体温や新型コロナウイルスの有無をシートに記入してもらう。

高橋剛院長は「家族の介助なしに出産するのは大変。市民が感染防止策を適切に取るようになり、立ち会いの制限を緩められると判断した」と説明する。

青葉区落合のメリーレディースクリニックも5月20日以降、県内在住の家族1人に限定し、出産立ち会いを許可している。

一方、仙台市立病院(太白区)など市内の総合病院は立ち会い中止、面会制限を継続する。市立病院総務課の担当者は「感染リスクを完全に排除することができない」と理解を求めている。



オンラインで和痛分娩セミナーを開く佐藤院長(左)  
=13日、仙台市青葉区のセントマザークリニック

じる仕組みも検討している。新型コロナウイルスの感染拡大で各産科施設は立ち入りを最小限に抑えるため、家族の立ち会い出産や面会を中止するなどした。5月中旬に宮城県内の緊急事態宣言が解除されて以降は、こうした制限を徐々に緩和する動きが出ている。